

平成 24 年度第 4 回福生市図書館協議会会議録（要旨）

日時：平成 24 年 10 月 27 日（土）午後 2 時～午後 4 時

会場：福生市民会館 2 階第 1 集会室・第 2 集会室

出席者：図書館協議会委員 8 名 図書館協議会事務局 7 名

（図書館協議会委員）

図書館協議会副会長	中川美奈子
図書館協議会委員	小山信一
図書館協議会委員	笹野広保
図書館協議会委員	高島絹子
図書館協議会委員	田中雄二
図書館協議会委員	坪井由紀子
図書館協議会委員	松尾昇治
図書館協議会委員	山根弓子

（図書館協議会事務局）

図書館長	島弘
中央図書館図書館係長	柿田芳久
わかぎり図書館分館長	新居陽子
わかたけ図書館分館長	櫛貞雄
武蔵野台図書館分館長	山田房子
中央図書館図書館係主査	小澤敬子
中央図書館図書館係主任	木村俊博

（司会）図書館木村主任

1 図書館長挨拶

島図書館長

2 図書館協議会副会長挨拶

中川図書館協議会副会長

3 議事

（議長）中川図書館協議会副会長

(1) 「福生市立図書館来館者調査」の説明

島図書館長より説明

坪井委員より説明

質疑

(委員)

調査報告書(「福生市立図書館来館者調査報告書」2010年)について、アンケートで男女別はないのか。男女別の方が、きめ細かな分析ができると思う。

→

(事務局)

図書館では、今、男女という区別をしていない。登録用紙も男性女性という表現を受けてはいないので、項目を設けていない。

(委員)

最近、性同一性障害の方に問題があるので、役所全体の方針でこれを消したのではないか。これは全国的な流れではないかと思う。

(事務局)

この調査は、主に貸出制限冊数等について聞いているので、男女での差は出て来ないだろうと思う。

(委員)

頻繁に利用する常連の利用者の80.5パーセントとは、どのような意味か。

→

(事務局)

2～3週間に1回の利用者と週1～2回の利用者の方は、ほとんど生活の中に図書館が根付いていると捉えている(頻繁、常連)。

(委員)

「貸出中でない資料も予約ができるようにして欲しい」とあるが、貸出中でない資料とはどういう状況にある資料か。

→

(事務局)

借りられる状態になっているものについてインターネットから予約はできません、ということである。貸出をしていないものについても予約という形で受取ることができると、予約が新刊の本に集中することを懸念している。在架予約については、インターネットの利用者がもっと増えたら検討していく。

(委員)

貸出冊数、貸出期間が変更されると、図書館の本が全部なくなってしまうのではないか。

→

(事務局)

去年4月より貸出冊数を10冊にしたが、一人あたりの平均貸出冊数は約0.8冊位増えた位であった。貸出冊数が増えても貸出期間は2週間なので、それ程極端に貸出冊数は増えていない。

(委員)

年代別利用者で、20代が10.2パーセントと非常に少ないが、これは全国的なことと捉えられるのか。20代を取り込むというような動きは、今後何か考えられているか。

→

(事務局)

福生で10年前がどうだったのか20年前がどうだったのかという比較もできず、他市との比較もしていないため、この数字が客観的にどういう数字か分からない。ただ、20代は30代40代より少ないということが言える。図書館としては大きな課題である。

(2) 図書館の各サービスについての意見聴取

島図書館長より説明

質疑

(委員)

福生でも対面朗読を、ぜひ始めて欲しい。

(委員)

団体貸出を利用している団体というのは、どの位か。

→

(事務局)

団体貸出の利用は、福生市立図書館事業報告書に記載している。学校関係幼稚園保育園関係等が利用している。団体貸出のほとんどは、学校幼稚園保育園関係となっている。

(事務局)

図書館では、毎年4月に学校に団体貸出の手引きをお配りしている。

(委員)

学校の先生は、子ども達のために団体貸出をしようというところまでなかなかいかないので、少し図書館でPR的なことをしていただきたい。

(委員)

今度、学校図書室が電子化されるが、バーコードを貼る作業がある時に、お手伝いいただけるのか。

→

(事務局)

3校の学校図書館電子化が予算化され、目録の電算化、デジタル化、バーコードを貼って、通常、図書館と同様にコンピュータで管理する。その他7校は、来年8月いっぱいまでに目録の電算化を予定しているようである。

(委員)

子ども達が借りている本は、学校から借りるのではなく、福生市からか。

→

(事務局)

今の段階では学校図書館の目録の電算化の管理には、色々な方法があり、メリット、デメリットもある。現在、検討中である。

(事務局)

来年は、学校図書館がすごく変わると思う。

(委員)

福生の図書館は活発な活動をしていると思うが、アンケートを見ると、図書館を知らないという人が多いため、PRは、インターネットだけに偏ることはないと思うが、ホームページは充実していく必要があると思う。紙ベースでも宣伝するようなことを広めていただきたい。

「ビジネスしごと支援サービス」を始めたが、市内では分館もあり、地域に関わるような情報課題を考えて特色を持たせていただきたい。

障害者サービスについては、録音図書の作成はどうか。デージーでCDを作成しているところがあるので、市内の朗読者の養成等を兼ねて、図書館で録音図書を作るという方向を持っていただければいいかなと思う。

(委員)

学齢前の児童に対する読み聞かせが重要だと思った。この辺の事業をもっと増やしていただきたい。読み聞かせの方法を教えるみたいな講座も増やして欲しい。結局、学齢前から本を読んでいれば、大人になってからもまだ本を読むんだと、この前の調査の結果があったが、そうだとすれば、それが一番大事だと思う。小さな子どもの頃から、親が読み聞かせてやるということで、読み聞かせの方法も親に教える、図書館でまた講座を開いて、

そんな形でその辺を充実して欲しいなと思う。

(委員)

中央館では無理と思うが、専門になる理科等それぞれの分野というものを、大人の本と子どもの本を混ぜて一緒に置いてもいいのではないか。子どもの本にも、親が読んでもいのように後に詳しく説明が載っていたりして、逆に大人の方が読んだ方がいいなという本もたくさん出ている。資料探しの時に、大人も子どもの本を開くと思う。そういう配架の仕方をしてもいいのかなと思う。

(委員)

簡単に分かりやすく書いてあるので、大人でも分かりやすいと思う。親に向かって後に細かい説明が載っていたり、意外と色々な本でもたくさん出ているので、そういう配置の仕方も面白いのではないかなと思う。ぜひ、考えてみて欲しい。

(委員)

簡単な館内のエリア地図が欲しい。いくら探しても見つからなかったということがあるので、やはり、簡単な色分けの地図があると良い。

→

(事務局)

今回、システムが変わり、どこまで期待に応えられるか分からないが、少しは良くなる予定である。

(3) 図書館の施設と設備について(説明と意見聴取)

島図書館長より説明

質疑

(委員)

図書館に歩いて行けないところは、利用率が低いか。

→

(事務局)

そのとおり。

(委員)

都営アパートを抱えている富士見台町会や加美平団地がそうだが、団地の地区の利用率が低い。

(事務局)

富士見台町会や加美平団地は、少ない。福生団地は割と多い。熊川団地も多い。加美平は非常に少ない。やはり図書館から離れていて、なおかつ高齢者率が高くなっているという気がする。

(事務局)

最終的に町会のもう少し大きい分かりやすい地図を作って、そこに数値を入れる予定である。

(委員)

福東地域と市民体育館のあたりに1つ図書館が欲しいなと思う。

(委員)

市民体育館周辺は、特に人口密度も高く図書館が必要なのではないか。

→

(事務局)

1つ図書館を作るとなると、億の単位の費用が掛かる。

(委員)

最初から計画はなかったのか。中学校区がいいとか。

→

(事務局)

1970年に東京都が図書館政策を作った。その時に各市町村にどの位図書館を配置したらよいかという計画を作った。福生市は1中央館2分館だった。それに基づき、市も計画を作り、先ず、わかぎり図書館を作り、わかたけ図書館を作り、中央図書館、というところで3館となった。武蔵野台は、市民要望もあり、東京都の政策を超えたところできた。

(委員)

その頃は、まだ中学校区に1館とか、そんな感じに分かれなかったのか。

→

(事務局)

中学校区に1館だと、福生は3館なので、それを超えている。

(事務局)

福東と市民体育館周辺が図書館に対してやはり遠いということは、大事な意見だと思う。

(委員)

市民体育館とか都立福生高校とか市役所等の一部に本を置いて、その近くの人はその日に行けば、そこで貸出ができるというのができればいいと思う。

(委員)

旧健康センターは、今どうなっているか。

→

(事務局)

旧健康センターは今、子ども家庭応援館となり、1階が子ども家庭支援センター、2階が教育相談室となった。全体を、子ども応援館として、2つの機能が入っている。

(委員)

できないからといって諦めず、この辺の地域の人の方がより借りやすく図書に触れやすいという、何か1つ考えてもいいのではないか。

(委員)

全体に関わって総括みたいになるが、結局答申に向けて、我々はこんなところをこんな風にしたらという提案をしたいというところで考え、今回まで含めて色々な資料を出していただいたが、分析が曖昧な部分がある。だから具体的に対策のターゲットが絞れていないという感じがある。何故20代が少ないのかという理由が、今一つ分かっていない。これが分かれば、そこに対する対策ができるはず。本当に利用の少ない町会は単純に館からの距離が遠いからなのかと言うと、そうではないかも知れない。例えば、団地は高齢者が多い、逆にサービスの面で高齢の方々へのサービスを手厚くしたら利用率が上がるのか、というようなところの一步一步の状況はよく分かってきた。でもその状況を生んでいる原因がまだ絞れていないから、ちょっと対策が出しにくいという部分がある。何が原因でこういうことが起きているのかということが、分かれば次の対策がいっぱい出てくるかなと思う。今日は、そういう状況なんだと、すごいよく分かった。その原因をどうやって探っていくのかなと、それがまた単純に距離が問題だったら、館を建てればいいんだという話になると思う。20代を増やすための手立ては何なのか、何が原因で20代は来ないのかというのが今一つ読めないから、対策が取れないみたいな形になっており、非常に面白い視点の資料が出てきたので、この分析がもう少しできると、何かすごい有効な対策が考えられるかなと思う。

(委員)

今までの分析だとサービスが、ちょっと欠けているのではないかなと思う。それをある程度、計画とか考え方では、それを水準まで高めるのが一つだと思う。それから、もう一つは特色ある何か、その地域に根差した特色ある図書館づくりだと思う。

(委員)

ヘビーユーザーが多いということは、特に悪いことではない。逆に、今ある形においてのサービスがいいのではないか。ヘビーユーザーが多いという裏面は、知らない、利用したことない、行ったことがない、というところに市全体の図書館の問題があるとしたら、広報活動のように重点を置いていって、初めての人達をどう呼び込むかというところにウエートが掛かっていったら、幅広い利用ができる。一度はまってくれたら、はまってくれるという福生のいい特色があるのであれば、そっちに積極的に何か広報活動をしていくと、大きく変わっていくかも知れない。

(事務局)

御意見を踏まえて、今後の進め方を次回まとめていきたい。

(4) 第9期福生市図書館協議会について

島図書館長より説明

質疑

特になし。

4 その他

質疑

(委員)

答申をまとめるということは、新任の方は分かっているか。

→

(事務局)

何人かには、説明した。何人かは、これから説明する。

(委員)

3月まで何とか引っ張れなかったのか。

→

(事務局)

慣例だが、最長10年で退任していただいている。

(事務局)

新しい方には時間を取って、今までの経過を説明し、答申作りに当たっては、例えば、プロジェクトで原案を作るとか、その辺を次の新しい会長と相談したい。

(委員)

次回、図書館協議会はいつ頃を予定しているか。

→

(事務局)

新しいメンバーの御都合もあるので、ベースとしては土曜日の午後、平日の夜でアンケートを取る。今回も、御希望を聞き、同じようなやり方でやりたい。12月のあまり遅くならない時、12月の初旬が良いと思う。

(事務局)

次回、問題点の整理みたいな形で、提示する。それを受けた形で、また御意見を伺い、答申の案素案を作っていく。文書のやり取りやメールになるか分からないが、積み重ねていく。

(委員)

諮問を見ると、平成25年度までに福生市立図書館将来計画を策定するためと書いてある。25年の3月を超えて、答申が多少遅れても大丈夫かなと思うが。

→

(事務局)

計画のところにも関わってもらいたいと思っている。通常、今まで年3回であったが、今年は6回で、来年度は5回位にしてもらって、計画のところに関わっていただきたい。伸ばしても来年4月まで。